摘　要

1新種および2新亜種の記載を含むハイイロヒトリの地理的変異についての覚え書

東南アジア一帯に広く分布する普通種ハイイロヒトリ *Creatonotos transiens* Walker の標本88個体をネパール，インド，タイ，西マレーシア，サラワク，ジャワ，フィリピン，台湾，琉球列島から蒐めて比較検討した結果，これらは大きさ，雄の色調，交尾器の形状において地域的に五つのグループに分け得ることを知った．このうちフィリピンのものは他のグループのものに較べ，前翅長において♂，♀の差が小さく，♀が♂と同一の色斑を示し，触角側方が白色を呈せず，後翅がより透明で，同縁毛が白色を帯びない点で *transiens* とは別の種類と考えられるので *C. philippinense* sp. n. として記載した．他の4グループは未だ調査地域が充分でないが，大体インド中部以北ネパールまでに原名亜種が，インドシナ―マレー半島，ボルネオ島に *C. t. orientalis* ssp. n.，ジャワ島に *C. t. sundana* ssp. n.，台湾以北に *C. t. koni* Miyake（もし香港のものと同じなら *vacillans* Walker を亜種名とすべきだろう）が分布するものと考えられる．この4グループのうち，前二者は♂の頭胸部の灰白色の色調に黄味を帯びるが，後二者は桃色味を帯びる．

♂交尾器では cornuti，anellus，第8背板，同腹板の形状に差異が認められる．本属の cornuti は棘を伴った三つの色斑部からなり，しかも真中の色斑は更に4個の小色斑に分かれる：*philippinense* では真中の色斑は分離せず，*transiens* のうち *orientalis* は基部の色斑が，また *sundana* は先端の色斑が発達しない．Anellus は aedoeagus をとりまく多少共骨片化した anellus band とその基部に生ずる anellus process とからなり，*philippinense* では anellus band が完全にとりまいているのに対し，*transiens* では背中で途切れている．Anellus process は *koni* が最も発達が悪い．

（中村正直）

日本未記録のモンシロモドキの1種

岸田泰則[1)]　斉藤秀生[2)]

1)(155) 東京都世田谷区北沢5—20—2　2)(156) 東京都世田谷区桜1—1—1　東京農業大学昆虫学研究室

An unrecorded species of *Nyctemera* from Japan (Lepidoptera: Arctiidae, Nyctemerinae)

Yasunori Kishida and Syusei Saito

筆者の一人，斉藤は，1975年4月に沖縄県石垣島にて採集を行った際に，日本から記録のないモンシロモドキ属の1種を得た．岸田は，その標本を調査した結果，次のように同定できたので日本未記録として報告する．

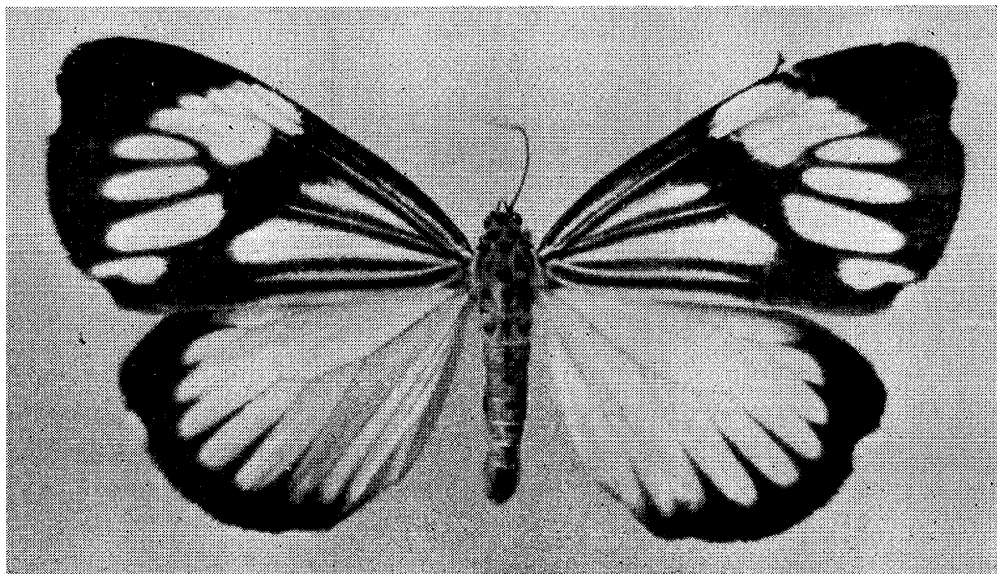
本文に先立ち，文献を御教示下さった杉繁郎氏にお礼申し上げる．

Nyctemera coleta (Stoll)　ネッタイモンシロモドキ（新称）

Phalaena coleta Stoll〔1781〕 Uitl. Kapellen, 4 : 153, pl. 368.

Nyctemera coleta. Hübner〔1820〕 Verz. Bek. Schmett., : 178.

Nyctemera tripunctaria, Matsumura (nec. Linné)〔1930〕Ins. Mats., 5 (1/2) : 62.

1♀, Bannadake Ishigaki Is. Okinawa Prof., 1. Apr. 1975, S. Saito leg.

開張48mm. 頭部および前胸部は黄色で黒紋がある. 下唇鬚は黄色で先端は黒色. 腹部は白色で末端は黄色. 背面に1列と側面に2列ずつの黒点列がある. 縁毛は黒色. 前翅の地色は黒色で, 白色の大きな紋がある. 後翅は白色で, 外縁は黒色.

本種は, 昼行性の蛾で, 岸田はマレーシアおよびジャワで昼間, 蝶のように飛ぶ本種を採集したが, この個体は夜間, 水銀灯の下で得た.

本種は, インドシナ・スンダ諸島・モルッカ・ニューギニア・フィリピン・ジャワ・スマトラ・セイロン・北部オーストラリア・セラム・ニアス島・台湾・マラッカなどの東洋熱帯に広く分布しており, いくつかの亜種に分かれているようだが (例えば, セイロンは subsp. *nigrovenosa*, セラム・モルッカ・セレベスには subsp. *melas*, ニアス島には ssp. *melaneura*, etc.), それらの地域の標本を筆者らは所有していないので, ここでは亜種の問題は扱わなかった. なお, 台湾から, Matsumura (1930) が, *N. tripunctaria* Linné ミツボシモンシロモドキとして記録している種は, 日本昆虫大図鑑 (1931) の図を見ると本種の誤りである.

文　献

Hampson, G.F. (1894) Fauna Brit. Ind. Moths, 2:49.
Matsumura, S. (1930) A Catalogue of the Arctiidae of the Japan-Empire, Ins. Mats., 5 (1/2) :62.
松村松年 (1931) 日本昆虫大図鑑, 刀江書院, 東京.
Pagenstecher, A. (1901) Über die Gattung *Nyctemera* Hb. und ihre Verwandten, Jahrb. Nassau. Ver. Naturkd., 54:91-175.
Roepke, W. (1949) The genus *Nyctemera* Hübner, Trans. R. Entomol. Soc. Lond., 100 (pt. 2) :52.
Roepke, W. (1957) The genus *Nyctemera* Hübner II, Tijdschr. Entomol., 100 (2) : 147-178. Seitz, A. (1915) in Seitz, Macrolep, World, 10:267.

Summary

One female specimen of *Nyctemera coleta* Stoll, collected on Apr. 1. 1975 at Ishigaki Is. Okinawa Pref. (Ryukyu) is reported. This seems the first record in Japan.

〔追記〕 本文を投稿後, 田中が本種を西表島より記録したので〔田中蕃 (1975) ミツボシモンシロモドキの西表島における発見. 佳香蝶, 27 (104) : 54〕この記録は二番目の記録となり, 本種の分布は西表島, 石垣島となる.

本種の和名は, 田中は松村のつけたミツボシモンシロモドキを使っているが, ミツボシは *tripunctaria* をそのまま訳した名であるので, ミツボシモンシロモドキは真の *N. tripunctaria* に使い, ここに記録した *N. coleta* にはネッタイモンシロモドキを使った方がよいと思われる. また, 田中は本種の亜種名を一応原名亜種に取扱っているが, 筆者もその意見には賛成である.